

LEADERSHIP CHALLENGE

大隈塾LCレポート vol.12

大隈塾リーダーシップ・チャレンジは4月18日（土）19日（日）、2015年度第1回の講義を開催いたしました。

初日は塾頭の田原総一郎、地方創生担当大臣の石破茂さん、コンディショニング・トレーナーの有吉与志恵さん。そして2日目はライフネット生命保険の出口治明さんでした。出口さんは4月18日が誕生日でしたので、講義後みなさんでお祝いをしました。

4月18日（土）

13:00～13:00 オリエンテーション（大隈塾の説明）

13:30～14:30 第1回講義

講師：田原総一郎（塾頭）

テーマ：「大隈塾とはなにか」

14:40～16:10 第2回講義

講師：石破茂氏（地方創生担当大臣）

テーマ：仕事で一皮むけた瞬間「自民党のリーダーシップ」

16:20～17:20 特別講義

講師：有吉与志恵さん（コンディショニング・トレーナー）

テーマ：「仕事に効く身体の整え方・コンディショニング」

4月19日（日）

09:00～10:30 第3回講義

講師：出口治明氏（ライフネット生命保険代表取締役会長兼CEO）

テーマ：伝記から学ぶリーダーシップ

「先人に学べ、そして歴史を自分の武器にせよ」

とりあげるリーダー：ムハンマド（マホメット）

10:40～12:00 グループディスカッション

初回だけにみなさん硬い表情でスタートしましたが、質疑応答は活発で、ファシリテーター役の田原総一郎が促さなくても積極的に挙手・発言が相次ぎ、特に2日目の出口治明さんの講義では質問者13名（受講生17名）もが出口さんに挑んでいきました。今年度はまさに「リーダーシップ・チャレンジ」となりそうです。

【第1回講義】

講師：田原総一郎

テーマ：「大隈塾とは何か」

・最近、ベンチャー企業がどんどん立ち上がり、成功した若い社長たちが200人ほど世に出てきている。

・20年前に堀江貴文さんが活躍していたときと今とでは大違いだ。一番の違いはベンチャーキャピタルが機能するようになってきていること。それと、野心のある人でも新卒でいきなり起業するのではなく、大企業に入って生き方や働き方のノウハウを学んでから独立する人たちが多くなっていること。ベンチャービジネスが「冒険」ではなく、「働き方の選択肢」となっていることだ。

・企業におけるリーダーの役割とは、(1)ビジョンを見せる(2)それを実現するための戦略を立てる(3)戦略を実行するための組織<人事>をつくる(4)組織のカルチャーをつくる



・経営者は社員に夢を与える。あるいは逆に、社員の夢やビジョンに耳を傾け、実現のための戦略をいっしょになって練ることが重要。

・ゲスト講師の話をおりがたがって聞くだけでは意味がない。大隈塾では、ディスカッションに重きをおいている。人が言うことを鵜呑みにしてはいけぬ。権威ある人の言葉が真実であるとは限らない。<真実とはディスカッションの中にもほの見えることもある>、とは福沢諭吉の言葉だ。

【受講生のレポートより】

「ビジョン」⇒「カルチャー」⇒「戦略」

政権交代前の自民党を例として、ビジョンのない組織へ衰退したとの話があった。この話を聞いて危機感を持った。我々民間企業も同じ問題を持ち合わせてはいないか？社内で活発な意見交換が出来ない企業は、言いたいことが言えなくなった組織はどうなるのか？そこにビジョンがなくなれば、カルチャーは育たず、政策など生まれぬ。結果、社員が夢を持たずに仕事をするようになるのではないか？会社に意見することの重要性を知ると共に、「組織を活性化する」方法のヒントはここにあるのではないかと感じている。

自分の生き方、考え方がいかに中途半端かを痛感した。明確なビジョンはまだ持てておらず、与えられた仕事をこなすことで満足してしまっている。論理的な説明が十分にできていないから、上司や部下を思うとおりに動かすことができていない。もっと社会のこと、会社のこと、仕事のこと、家族のこと、そして自分のことについて、突き詰めて考えるという姿勢が必要だと思った。そうしないと成長はできない。

私の仕事は会社の方針をもとに業務を組み立てているが、そこに部としてのビジョンがあったか？働く個人個人の夢の確認を怠っていたことに気付いた。ビジョンがなければ、戦略も立て

られず、YES、NOの判断も出来ないのでは？と不安になった。まずは現状分析をし、問題意識を持ち、皆に共有したい。（部員それぞれに、そのために何をすべきか話し合いを持つ）。部の中での多様性を大切にしたい。

=====
「過去の成功体験に頼ることが一番良くない」という言葉も大変心に残りました。どうしてもそういう部分にすがってしまうことがこれまでにありましたので、この言葉を忘れずに、将来組織のリーダーとなった際には常に念頭に置いてメンバーと関わって行きたいと思います。

【第2回講義】

講師：石破茂氏

テーマ：「自民党のリーダーシップ」

- ・「1強多弱」、自民党がなぜ強いのかというと、ほかの政党が弱すぎるからだ。自民党が強いのではなく、野党が弱いだけだ。
- ・2009年に下野したとき、世論調査を行なった。なぜこんなに自由民主党はダメになったのか。世論調査でいろんな問題をあぶりだして、これまでの自民党を大反省した。
- ・野村克也さんに講演してもらったら、「負けに不思議の負けなし」と。負けるには負けるだけの理由があって、それをきちんと分析して改善しないと、次の試合も負ける。しんどい作業だったが、敗因分析をして「自民党は政権維持が目的となっていた」と結論づけた。そこを改善した。
- ・つまり、1955年以来の産業構造、社会の仕組み、教育、そして憲法を変えていかなくてはいけなかったのに、どんどん先送りした。政権の維持のためには、改革よりも現状維持のほうが有利だったのか。
- ・農協改革にしるTPPにしる、これまでの日本の構造を変えることにつながる。
- ・憲法にしる集団的自衛権にしる日米同盟にしる、突き詰めて考えた上での賛成意見、反対意見なのか。
- ・ビジネスにおいても同じことだ。「ものごとは突き詰めて考える」とは、三井銀行にいたときに叩きこまれたことだ。
- ・政治家になっても、新しい政策に取り組むときには、まず国会図書館にいて関連する論文すべてに目を通す。これはと思える研究者に教を請いに行く、自分なりの意見をまとめる、政策を立てる、という順番になる。



【受講生のレポートより】

講義の最後にあった「政府がやるべきこと、民間がやるべきこと」では、この国の将来を考えれば人口減少（＝マーケット縮小）に対する、官民の役割分担を早く明確にすべきであると強い問題意識を持つことが出来た。またそこに新たなビジネスチャンスがあると感じた。

「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」という言葉の引用にあるとおり、何が問題だったのかを突き詰めていく意識。「話の引き出しを多く持つ」ために、多くの論文を読み、自身の考えにあう学者の意見を選んで知識を深掘りしていくという学習方法。「選挙に弱い人」は「自分で努力しない人」という言葉。この言葉の裏に秘められた自らの努力に対する自負。

政治家のリーダーシップについて、以下の通りお話しいただいたが、「選挙に強い」を「仕事ができる」に置き換えれば、我々民間企業のリーダーシップと同じであることに気付いた。

政治的なトピックで理想論・精神論的な内容をやや想像していたが、予想に反して、そのような要素がなく、過去事象の分析と現データに基づき、現政策を策定されていることが、数値的データに基づく講義内容から推察された。

リーダーとして人の信頼を得るために、数値的データに基づいた戦略が必要であることは、国会議員であっても、一企業であっても同じだと感じた。

チームのディスカッションの中で共通していた点は、「ビジョンを持つこと」と「突き詰めて考えること」の大切さです。特に、突き詰めて考えるということについては、具体的な数字を以て示すことが実務の世界ではポイントになることも痛感しました。これは私自身の日頃のビジネスにおいても同じことが言えると思います。はっきりとした論拠を持つことで、相手に自分の意見を正しく理解してもらい、そこから共感を得て、説得することにつながると実感しています。

竹下登さんの「汗は自分でかきましょう、手柄は人にあげましょう、そしてその場で忘れましょう」は、今後、マネジメントする立場になったときの金言にしよう。

【特別講義】

講師：有吉与志恵さん

テーマ：「仕事に効く身体の整え方・コンディショニング」

- ・西洋人の身体づくりと東洋人の身体づくりは、まったく違う。にもかかわらず、運動の理論は西洋人と同じものを使用し、トレーニングしている。
- ・脳みそが筋肉を支配しているのではない。筋肉が脳みその働きを支配している。
- ・したがって、筋肉がこり固まっている、疲れがたまっている、リンパが正常に流れてない、体温が正常より低い、ときに脳みそが活発に働くはずがない。仕事の生産性は、体調に左右される。
- ・身体の調子がいかに大切かを理解できない人間は、経営者にはなれない。

【受講生のレポートより】

「仕事の生産性は体調に影響を受ける」という言葉に強いインパクトを受けた。言われてみれば当たり前のことであるが、そのことが売上・成績にどれだけ影響しているかの検証など、実はしたことなどない。と言うことは、健康（体調）と営業成績を関連付けて真剣に考えたことがなかった。リーダーが持つべき視点として、大きく考え方を変えられた瞬間でした。

失敗・経験から学んでいる人はやはり自信に満ち溢れている。田原さん、石破さんのあと、知名度がなく受講者の関心が薄まりかねないテーマにも関わらず、わかりやすく面白く惹きつける力（リーダーシップ）に感心した。

会社で色々な上司を見ていると、仕事ができても体のコントロールができていないと思われる人もおり、そういう人にはあまりいい印象を持たない。

充実した私生活、仕事をしていくためにも、まず健康であることが重要であることを再認識した。自身も健康維持については、不安を感じていたこともあり、まずは与えられた課題（足首まわし、ロングプレス）を確実に実施するとともに、その他の生活習慣についても改善していきたい。

年齢を重ねるに従って、健康管理の観点からの運動の必要性を意識するようになっていましたが、「まとまった時間がとれない」「運動＝体力を消耗する」ということを理由に、運動から逃げていたところがありました。しかし、コンディショニングの考え方を伺って、姿勢や呼吸等を意識してコントロールすることで、筋肉を調整＝コンディショニングすることができ、それが健康管理につながるということに目から鱗がおちました。



【第3回講義】

講師：出口治明さん

テーマ：「先人に学べ、そして歴史を自分の武器にせよ」

・どんなにいい会社に勤めていても、人間には向上心があるから100%その境遇に満足する人はいない。世界を変えたい。自分の周囲を思うように経営したいという「世界経営計画」を一人一人が持っている。

・神様なら思うままに世界を変えられるが、私たちは「自分が今のポジションで何ができるか、何をやったら良いか」を考えなければならない。それを考えるためには「世界をちゃんと見る」必要がある。

・しかし、人間は見たいものしか見ない動物であるので、「世界を見る方法論」が必要である。

・世界を見る方法は「時間軸と空間軸」、つまり「歴史とグローバル」でみることと、「数字、ファクト、ロジック」だ。人間にとって一番怖い生き物は何か。クマやサメや毒蛇か？ 「1年間にそれによって何人が殺されているか」と数字で見ると、圧倒的に「蚊」で70万人、次に「人間」で40万人。人間にとって恐ろしいのは、蚊と人間である。

・なぜ歴史を学ぶ必要があるのか。それは、「リーマン危機の事を分析し尽くした企業」と「分析しない企業」とでどちらが今後生き残れるかという事から分かる。将来何が起こるかは分からないが、人間にとって教材は過去にしかない。技術だけは進歩したが、人間の脳味噌は一万五千年変化していない。何かが起こった時の人間の対応、考える事は脳が同じレベルだから今も同じである。

・99.9%は失敗する。成功する0.1%は、99.9%は失敗するというFactを意識し認めた上で、「でも自分で行動しないと世界は変わらない」と思ってドンキーホーテの様に動き始める人だけが世界を変える事ができる。ムハンマドはその成功者である。

【受講生のレポートより】

物事の見方・考え方を変わると言われている講義だったと感じている。

=====
出口さんはいい意味で力の抜けた、世の中を達観している方だと思った。そのように生きることができるのは、歴史から多くのことを学び、自分なりの人間観や社会観をお持ちだからなのだろう。日々起きる出来事にくよくよ悩んでいる自分がちっぽけに感じた。

=====
何が自分にとって大事なのか、自分をコントロール出来ているのか？（1年間8760時間中、2000時間程度しか働いていない。それ以外の時間を何に使うのか？）

=====
ライフネット生命保険(株)を60歳で立ち上げた理由の1つに、20代の子育て世代が一番貧しく、その社会課題に対しての1つの解がネットでの生命保険という話を聞いた。優れたリーダーとはやはりビジョンが明確であり、社会貢献を使命としている人なのであと、改めて感じた。

=====
物事を自分の見えているところだけではなく、縦軸・横軸、あるいは「世界」から物事を捉えることの重要性を感じました。また、「失敗するのは当然の事」「人生で仕事が全てではない」といったことを意識することで、仕事に対してプレッシャーばかりを感じることなく、良い意味で仕事を楽しむことができるのではないかと思います。



大隈塾リーダーシップ・チャレンジレポート vol.12

2015年5月4日発行

大隈塾事務局（一般社団法人ストーンスープ）

村田信之 mura@ta2.so-net.ne.jp

169-0051 東京都新宿区西早稲田1-9-19 アーバンヒルズ早稲田207

tel:050-3558-7527 mail:ookuma_school@stonesoup.tokyo